

<b>卒業研究</b>		<b>演習</b>	<b>教授 丸山 高行</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネス学科の必修科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>21300401</b>	

### 1. テーマ

「企業研究」（企業活動が関係する業界動向や社会現象に関する研究も含む。）

### 2. ゼミのねらい・概要

3年次の専門ゼミで蓄積した基礎知識をベースに、各ゼミメンバーが自ら選んだ研究テーマについて積極的に研究を深め、卒業論文につなげていくことを基本的なねらいとする。また、卒業論文の作成を通じて論理的な思考方法を習得するだけでなく、卒業後も立派な社会人として国際的に活躍できるように、幅広い素養を身につけてもらいたい。

なお、専門ゼミA・Bに引き続き、企業研究にとって必要な経済・金融関係の知識を効率よく身に付けるために、「賢者のポートフォリオ」というシミュレーション・ソフトを導入し、ゲーム感覚で株式投資の疑似体験ができる環境を用意する。また、希望するゼミメンバーには、金融・ファイナンス関係の各種資格（たとえばFP技能士や証券アナリスト）取得の指導も行う。

### 3. ゼミ計画

ゼミ計画は、概ね以下のとおりとするが、ゼミメンバーの問題意識や関心・興味等を見極めながら適宜見直しを図る。

<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（卒論完成までのスケジュールの確認など）</li> <li>2. 論文作成にあたっての留意事項の解説と質疑応答</li> <li>3. 企業研究レポートの最終発表と議論①</li> <li>4. 企業研究レポートの最終発表と議論②</li> <li>5. 卒業論文の概要の発表（ゼミ生5～6名）と議論①</li> <li>6. 卒業論文の概要の発表（ゼミ生5～6名）と議論②</li> <li>7. 卒業論文の概要の発表（ゼミ生5～6名）と議論③</li> <li>8. 卒業論文の概要の発表（ゼミ生5～6名）と議論④</li> <li>9. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論①</li> <li>10. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論②</li> <li>11. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論③</li> <li>12. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論④</li> <li>13. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤</li> <li>14. 卒業論文の図表の発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥</li> <li>15. 前期のまとめ（素稿と論文要旨の作成方法など）</li> </ol>	<p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（卒論完成スケジュールの再確認など）</li> <li>2. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論①</li> <li>3. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論②</li> <li>4. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論③</li> <li>5. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論④</li> <li>6. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤</li> <li>7. 卒業論文の中間発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥</li> <li>8. 卒論完成に向けての注意点の確認と質疑応答</li> <li>9. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論①</li> <li>10. 卒論論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論②</li> <li>11. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論③</li> <li>12. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論④</li> <li>13. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論⑤</li> <li>14. 卒業論文の最終発表（ゼミ生3～4名）と議論⑥</li> <li>15. 全体のまとめ（卒業後の心構えなど）</li> </ol>
--	---

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①卒業論文の本格的な作成時期は就職活動の時期と重なるので、各自前倒し、かつ、計画的に、研究活動を進めて行くこと。ゼミ開始以降は、論文作成のために、最低週2時間は確保すること。

②ゼミ時間における論文進捗状況等の発表の際は、必ず3時間以上をかけて、入念に事前準備に取り組むこと。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

論文概要の発表以降、論文進捗状況等の発表のつど、論文の構成、データ分析の方法、結論の導き方、図表の作成方法、参考文献の選定など多方面にわたって改良点をコメントするので、発表者は次の発表機会までに、指導を受けた内容を的確に自身の論文に反映すること。また、発表の際は相互ディスカッションの時間を設けるので、発表者以外のメンバーも、発表内容や指摘された改良点を参考に、自身の論文のレベルアップに努めること。

## 6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文の作成を通じて論理的な思考方法を習得するだけでなく、卒業後も立派な社会人として国際的に活躍できるように、幅広い素養を身につけることを目標とする。

## 7. 成績評価の方法・基準

卒業論文の内容（60％）および相互ディスカッションを含めたゼミに対する取組み姿勢（40％）。

## 8. テキスト・参考文献

各自の研究テーマに応じて、必要と思われる文献や資料などを個別に指示する。

## 9. 受講上の留意事項

ゼミ生は自身の研究テーマだけでなく、他のメンバーの研究テーマや発表内容にも関心をもち、積極的に議論に参加していく姿勢を期待する。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本ゼミは、金融機関における実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。